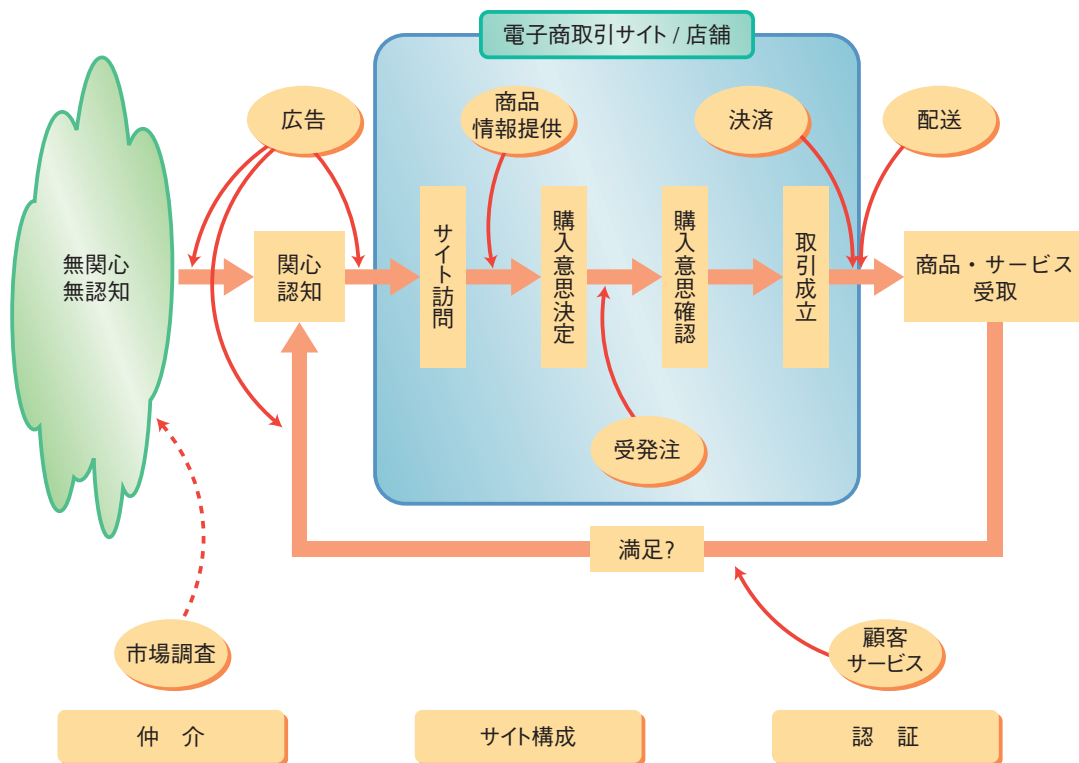


## 3

## 電子商取引

電子商取引技術は個々の商取引プロセスを実現するための技術と、売り手と買い手を結び付けるための仲介技術、取引相手を確認するための認証技術、そしてサイトの魅力を高めるなどのその他サイトを構成する技術よりなる。

電子商取引を構成する商取引プロセス



電子商取引関連特許の出願件数の推移を見ると、1994年頃から日米を中心に出願の増加が認められる。1993年は、米国に初の電子店舗が出現した年であるとともに、米国を中心としてWWWが世界に普及しはじめた時期でもあり、特許出願増加傾向はこれと時期的に符合している。1993年以前は、専用線をベースとした企業間取引に対応した特許出願と考えられる。

1998年における日本と米国の出願件数を比較すると日本が優位であるものの、米国特許では成立して公開されている件数しか把握できないこと、また成立しない特許出願が把握できないことから実際にはもっと多くの出願があるものと推測される。

広告関連特許においても、電子商取引関連全般と同様、1994年頃からの出願件数の伸長が見られる。同分野では先にみた電子商取引全体とは異なり、米国の出願件数が日本・欧州に比べて圧倒的に優位である。

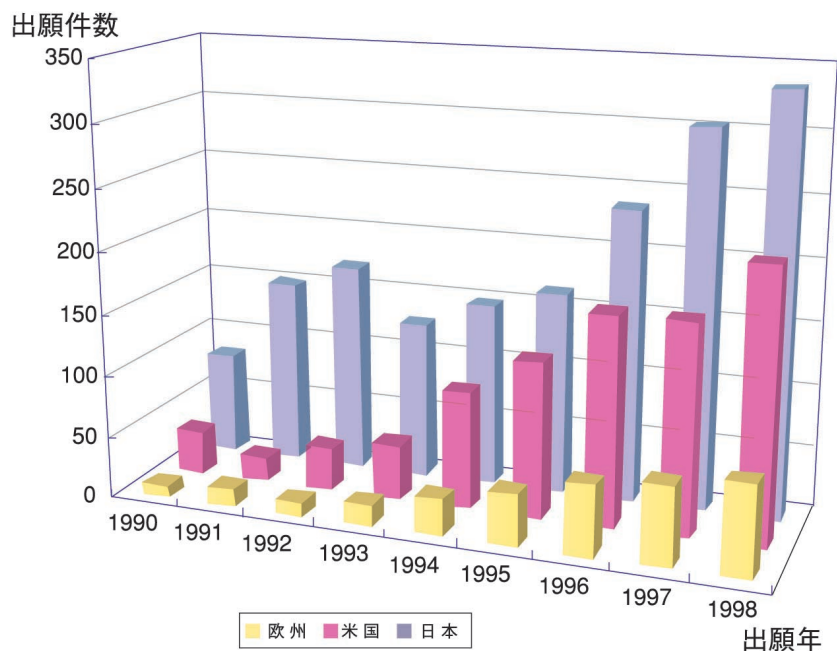
一方、次世代情報端末として注目を集めている携帯端末を利用した電子商取引に関する特

出典：2000年度特許出願技術動向調査分析報告書「電子商取引」

米国：成立特許から出願年を同定してその件数を表示

許出願件数(1990～2000年になされた出願の合計)においては、広告関連特許とは対照的に、日本の出願件数が315件と米国(66件)、欧州(82件)への出願と比較して顕著に多くなっている。

電子商取引関連特許の出願件数推移



広告関連特許の出願件数推移

